

活動報告：2025 年 12 月講演会&座談会

日時：2025 年 12 月 13 日（土） 20:00～21:30

場所：Teams

講演：「ノロウイルスの不活化評価技術の変遷と課題」

講師：尾崎 恵太 会員（株式会社ニイタカ 技術部）

12月13日（土）に近畿本部生物工学部会主催の講演会&座談会（オンライン）を開催しました。講演者は尾崎恵太会員（所属：株式会社ニイタカ 技術部）で、「ノロウイルス不活化評価技術の変遷と課題」という演題で、毎年この時期に食中毒の主原因として世間を騒がせているノロウイルスの不活化剤開発に関する事例についてご紹介いただきました。

ノロウイルスは、エンベロープを持たない RNA ウイルスであり、感染力が非常に強く、少数粒子でもヒトに感染します。また、乾燥環境でも長期間感染性を維持します。一般的にノロウイルス感染予防対策としては、加熱処理や次亜塩素酸ナトリウム処理が知られていますが、食品製造現場での実施には課題がありました。そのため、講演者らは食品製造現場で使用するための厳しい条件を設定し、アルコール製剤をベースとして新しい組成の製剤を検討し、製品化されたという内容でした。また、企業における研究開発であることから、開発技術及び市販製品を保護する知的財産権の取得にも抜かりはありません。

特に不活化効果の検証においては、培養法による代替ウイルスでの試験結果をもって有効性を推定し、その後培養法によるヒトノロウイルスでの最終検証を行う必然性について力説されていました。本講演で紹介のあった培養法によるヒトノロウイルスでの不活化検証方法は、試験コストや検体の倫理上の制約等の課題が多いようですが、効果の高い不活化製剤の開発のため今後の普及に期待したいと思いました。

講演会参加者は7名でしたが、講演後の座談会でも活発な質疑応答が交わされ有意義な時間を過ごすことができました。

（文責：島田敦）